



PPP 事業部 後藤次長 登壇の様子(向かって左から3番目)

川崎市 PPP プラットフォームセミナー パネリスト登壇

2024年4月から始まった麻生区内学校施設包括管理業務について、「学校から連絡があって、当日・翌日に対応できた割合が60%」という説明に、参加者その他のパネリストから従来に比べ迅速・的確で感動したとのコメントがありました。

また、所轄の教育委員会でも総合的に高い評価を得ており、全市導入が検討されています。

▶ 本誌13ページに詳細記事掲載。

[目次]

新年度のご挨拶、新規契約現場一覧	... 2,3,4P
第20回優良現場表彰	... 5~11P
WAKO's Way 推進受賞者	... 12P
熱中症対策義務化、川崎市 PPP プラットフォームセミナー登壇	... 13P
ワクスル活動報告	... 14P
各種お知らせ	... 15,16P



新 年 度 の ご 挨 拶



代表取締役 矢口 寛志

社員の皆さん、日頃より業務に精励していただき、ありがとうございます。

今年度も人手不足に悩まされる大変な一年になることが予想されます。昨年の国のデータからも日本の人口は減少し続けて 2045 年には単純計算しても 8500 万人を割り込む公算が強くなりました。当社も引き続き機械化や無人化という少人化を目指す技術革新を行い、労働力不足を補っていく努力をしていきますが、我々の仕事はロボットだけでは良い品質を保つことは出来ず、まだまだ人間による作業や判断が必要な所は多いと思います。道具と機械等の工夫による効率化を更に行うには皆さんに協力いただき共に進めていきたいと思っています。

さて、昨年度より始まりました学校の包括管理契約も順調に進み、当社の新たな事業の柱となっていくと思います。包括管理というのは、行政の一担当者に代わって、当社がプロとして建物を巡回して維持管理を行う管理手法です。従来は学校で何か不具合があると先生が教育委員会に連絡し、それを教育委員会が業者に修繕依頼し直すという流れであったため、不具合等が改善するまでに一週間以上の時間がかかりました。これが当社の管理に変わったことで、不具合を発見した際はその場で当社が応急処置を行い、更なる工事が必要な場合は、後日に修繕するという方法となり完了までの時間が大幅に短縮され、学校の業務に支障をきたすことが少なくなりました。それが各校の校長先生方から高い評価を得ています。今後他の区でもこの管理手法の導入が検討される動きがありますので、更なる業務拡張に繋げていきたいと思っています。

また、未来の地球のためにも環境配慮には意識をもって継続して取り組んでいただきたいと思います。さらに、社員の皆さんには WAKO's Way の更なる浸透に向けて、今年度もしっかりと実践してお客様に喜んでいただく仕事を願います。

最後に、今年度も変わらず皆さんとコミュニケーションを図って参りますので、大勢の皆さんとイベント等でお会いできることを楽しみにしています。皆さんには仕事以外にも楽しみを持っていただき、長く働けてかつ働きがいのある会社を目指していきますので、何卒よろしくお願いします。



取締役常務執行役員 中西 正敏

平素より業務にご尽力いただき、誠にありがとうございます。

さて年々深刻になる人手不足の中、皆様には種々ご苦勞をおかけしている事と存じます。本年度は、次の対策を打ちますので、皆様の倍旧のご協力をお願いします。

- ①採用の強化
- ②健康管理と離職予防強化
- ③教育の強化

特に昨年より、健康診断の再検査と精密検査に掛かる費用を、交通費を含めて会社で負担させていただいています。皆さんご自身の健康管理にお役立てください。

また、清掃責任者会議にて提案がありました「清掃教育マニュアルの基礎編」を各事業所へ配布しています。清掃未経験の新人の方でも職場に早くなじんで戦力となれるようにご活用ください。

最後に、高齢化社会の中リスクリリング※が注目されています。本年も、設備中心に資格取得の支援制度を継続していきますが、清掃・警備等でも業務に活用できる資格取得がありましたら、営業所職員に提案いただければと思います。

以上、本年度も健康に気を付けて一年頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

※リスクリリングとは・・・技術革新やビジネスモデルの変化に対応するために新しい知識やスキルを学ぶこと。



取締役執行役員 角田 正博

日頃より各取引先で尽力いただき感謝申し上げます。春を楽しむ間もなく初夏の陽気が訪れておりますので、暑さ対策にはより気を付けて業務にあたっていただきますよう宜しくお願い致します。

既にご存じの方もいらっしゃると思いますが、お蔭様で昨年度も新たな事業を展開することが出来ました。今回はその新事業である公共事業市場についてお知らせ致します。

昨年度より PPP 事業 1 件(川崎市麻生区小中学校包括管理)、PFI 整備事業 2 件(厚木市 健康増進施設/川崎市 小中学校空調整備)を開始しています。公共施設の維持管理部門においては国交省の指導により 2000 年初頭から制度の見直しが成され、2015 年度から更に強化され各自治体の施設維持への考え方の変容が顕著です。国交省は建築保全業務に係る適正な共通仕様や積算基準を適用するよう通達していますが、これは施設の長寿命化を意味し、その考えから包括管理事業が始まりました。包括管理とは自治体にある全ての施設を民間事業者に包括的な維持管理を委託する事業で、複数型・単独型・インフラ型・混合型に分類されます。

指定管理事業が飽和状態とあって今後はこの包括事業と PFI 事業整備後の長寿命化への徹底した施設管理が求められることになります。両事業による共通点は予防保全という考え方で、予算超過に陥りがちな事後対応という管理手法は今後極力減らして行くということです。保全性・美観性・衛生性・安全性の観点から施設の資産価値低下を低減することが今後さらに重要になってきます。常駐されている皆様の気づきが予防保全と施設の価値そのものに繋がります。今年度も引き続き御協力のほど宜しくお願い申し上げます。



執行役員東京支店長 兼 警備管理グループ長 櫻井 是孝

薄暑の候、爽やかな初夏のみぎり、皆様元気でお過ごしのことと存じます。

各現場では新年度を過ぎて行き交う人も変わり、次第に暖かくなるとともにご多忙のことと存じますが、お変わりございませんか。いつも日々精励されている事、心より感謝申し上げます。

私事では、昨年初めて手術を受け入院し、大変ご迷惑お掛け致しました。偶然にも入院先は、当社で業務を請け負っている病院でした。手術後しばらくはベッドでの不自由な生活を余儀なくされましたが、ゴミの回収・床の清掃・水道の調整など、当社で働く皆様のサービスを直接受け、とても快適に過ごすことができました。時には励ましのお声がけもいただき、痛みが和らぐ気がして励まされました。重ねて御礼申し上げます。

(おかげさまで順調に回復し、引き続き健康に努めながら改めて粉骨砕身する所存でございます。)

さて、最近では物価上昇の折、施設にかかる経費も上昇してお客様の運営も益々厳しくなっているために、施設に欠かせない清掃・設備・警備といった我々の仕事でも、仕事のやり方やあり方などについて、様々相談を受けることがあります。

お客様には、皆様の誠実丁寧な仕事と昼夜・寒暖問わぬ日々の努力、そしてその仕事ぶりに助けられる利用者の意見も与しながら必要性を説明し、お客様のご理解をいただきながら、より働きやすい環境を作っていきたいと考えています。

最後に、皆様が希望に満ちた日々を、引き続きご家族とともにご健康にご安全に歩まれることを心から祈念しております。



執行役員 川崎支店長 兼 営業企画部長 兼 PPP事業部長 矢口 健人

平素より業務にご尽力いただきまして、誠に有難うございます。

突然ですが「2025 年問題」をご存知でしょうか？この言葉は、国民の約 5 人に 1 人が 75 歳以上となる超高齢化社会の到来を意味し、社会保障費の負担増や人材不足が深刻化する問題を指します。いよいよその年に突入しました。社会全体で向き合えないと対処できない問題だと思いますが、この問題の解決策の 1 つは「働き手を減らさない」ということです。当社では社員一人一人がしっかりと働ける環境をつくりたいと考えております。

さて話は変わりますが、先日、以前から気になっていた相撲観戦に初めて行ってきました。土俵の中で大男たちがぶつかり合う姿を観ているだけで心躍りますね！また会場を見渡してみると、老若男女の方がおり（小さな子供も沢山いました）、真剣に見入る方、お酒を飲んで談笑する方、大声で声援を上げる方など、十人十色の楽しみ方をしていて、テレビで観るのとは全く印象が変わりました。相撲観戦を通じて、リアルに触れることの大切さを改めて感じたので、今年はプライベートでも仕事でも「リアル」を追求していきます！

最後に、本年度の皆様とご家族のご健勝とご多幸を祈念致しまして、締めめの挨拶とさせていただきます。

令和 6 年度下半期 新規契約現場一覧

（一部上半期分含む）



- 4 月 川崎市橋処理センター（設備保守）※1
- 6 月 川崎市小中学校空調機 PFI 整備事業（設備保守）※2
- 11 月 東亜合成（害獣駆除）
- 12 月 進栄ビル（建築設備定期検査）
- 1 月 第二リバーハイツ多摩川寮（日常清掃）
- 1 月 コーポ南（防犯カメラ保守）
- 2 月 SOSiLA 厚木金田（日常清掃）
- 2 月 三菱ケミカル物流（警備）
- 3 月 たきがしら会館（防犯カメラ保守）
- 3 月 三井住友信託津田沼（日常・定期清掃）

※1 川崎市橋処理センター（設備保守）

大成有楽不動産の公民連携プロジェクトチームと当社営業本部との協調で受注しました。

2015 年に稼働を停止し約 10 年かけて新たなゴミ焼却施設として今年度再稼働しました。

大成有楽不動産と 3 施設目の協働管理となります。当社が推進している SDGs 活動と相まった環境変化に適応した管理施設で、市民・事業者・行政の協働のもと、3R（リデュース・リユース・リサイクル）を基本としてごみの減量・リサイクルを推進し、市内環境にやさしい持続可能な循環型社会の構築が重視された時代的ニーズに整合した処理方式施設です。

※2 川崎市小中学校空調機 PFI 整備事業（設備保守）

三菱電機ビルソリューションズ 営業本部 PFI 推進室と当社営業本部との協調で受注しました。県内初となる公共教育機関の空調機整備事業の公募情報から営業を進めました。

本公募同時期に市内麻生区小中学校包括管理の公募に参加していたことから、管理の効率性を鑑み当社担当区を麻生区全域とその近隣区を含む 43 校に照準を絞り協議。

照準区学校管理の承認を得て今年度より代表企業である関西電力グループからの委託で 17 年間に亘る長期契約が始まっています。



橋処理センター外観



PFI 事業作業写真

本現場は、川崎駅から徒歩7分の場所に位置する設立1927年の歴史ある病院です。病院という性質上、体調の優れない方や緊急の電話が多くかかってきますが、3名のスタッフが連携しながら対応を続けています。チーム全員が同時期に入社し、共に新人として1年間業務を積み重ねてきました。今回その現場で日々奮闘している皆さんにお話を伺いました。

声だけの「印象」で信頼を築く

交換業務は顔が見えない“声だけで伝える仕事”です。そのため、第一印象を左右する“声のマナー”に全員が強く意識をもたれています。

「おはようございます」といった挨拶ひとつにも、相手のトーンに合わせ、嫌な印象を与えないよう、丁寧に、優しい声で話すことを心がけています。

病院では患者様やご家族、医師、看護師、救急隊など多様な相手とやり取りをします。特に救急対応時は一刻を争いますが、状況により担当の科に電話を繋げられない葛藤も。そんな時でも「申し訳ありません」「自分のミスでした」と誠実なフォローを忘れない姿勢が、信頼の積み重ねに繋がっています。

一人ではできなかった。チームで乗り越えた一年

オープニングスタッフとして同時入社した3人でお互いに支え合い、分からないことを共有しながら進んできました。3人は一年を振り返り、「誰か一人でも欠けていたら、乗り越えられなかったと思います。病院特有の文書やペーパーの多さに戸惑いながらも、声を掛け合い、丁寧に覚えてきました。“チームであること”を常に大切にし、些細なことでも相談しあえる雰囲気、結果として大きなトラブルやクレームもなく1年を乗り切れた理由です」と話してくださいました。

第20回 優良現場 表彰

下期テーマ
マナー

立ち上げから支えてくれた業務管理担当との信頼関係

印象的だったのは、現場を管理する長谷川さんとの温かい信頼関係です。

初期の研修時から長谷川さんはスタッフと共に現場に入り、一つひとつの業務を同じ目線で丁寧に覚えていきました。その姿勢は、管理者とスタッフという垣根を超えた安心感と親しみを生み、「困ったことがあっても、まず相談してみよう」と思える土壌を築いてきました。

皆さん一様に「話しやすかった」「見守られている感じがした」と当時を振り返り感謝の言葉を口にされていました。

今後に向けて「変わらず丁寧に」「より働きやすい体制を」

「今後も、今までと同じように、協力しあって、丁寧な対応を続けていきたい」という前向きな気持ちとともに、チームは次の一年を見据えています。

彼女たちの変わらぬ姿勢が、現場の信頼を築き続けていく大きな力になることは間違いありません。

▼現場担当者 川崎営業所 長谷川副所長より

2024年4月からスタートし、現場社員の中村さん・町田さん・岡田さん共に一生懸命取り組んでいただいているおかげで、病院側より毎月お褒めのお言葉を頂いております。

また、電話交換は様々な取り次ぎに対応しなければならず、精神的に負担の大きい業務ですが、毎日1件もクレームを出さず遂行されている皆さんには非常に感謝しております。今後も体に気を付けて頑張っていきましょう！



太田総合病院スタッフの皆さん

都心に位置する東京共済病院は、高度急性期医療の最前線を担う重要な施設。ここでは、患者さんや医療スタッフが安心して過ごせる環境をつくるために、日々多くのスタッフが支えています。その中でも、設備管理チームと清掃チームは、“当たり前”の医療環境を支える縁の下の方たちとして、大きな力を発揮しています。今回はそれぞれの現場を牽引する友常さん（設備管理）、鈴木さん（清掃責任者）、宇野さん（清掃スタッフ）にお話を伺い、仕事への想いや日々の工夫についてお伺いしました。



友常さん

「できることは自分たちで」 設備管理が担う即応力と信頼

設備管理の一日は朝礼からスタート。病院の施設課と連携しながら、前日の作業報告や当日の対応予定を共有します。換気ファンやトイレの臭いといった、快適性に直結するトラブルには即座に対応。自前の部品を使っての即日修理など、『外注に頼らず自分たちでやる』がモットーです。「7人いれば7通りの得意分野がある。それを活かして、誰かが動けば自然に他の人の手も動く、そんなチームです」（友常さん）。

こうした姿勢は“頼れる存在”としての価値を現場に根づかせています。

清掃がつくる、第一印象と安心感

清掃スタッフは、毎日早朝から病院の隅々まで清掃を行い、清潔で安全な空間を保ち続けています。現在、13名のチームで構成され、各持ち場を責任を持って担当しています。作業の合間にも、次の動きを常に意識しながら動いています。「掃除だけでなく、私たちの姿勢が病院の印象を左右すると思うんです。挨拶や声掛けなど何気ない一言を大事にしています」（鈴木さん）。

病院という“命と信頼”の場では、清掃は単なる裏方作業ではありません。すれ違う医師や患者さんに「お疲れ様です」「お気をつけて」と自然に声をかける姿勢が、病院の空気を和らげ信頼の土台となっています。

日々のさりげない会話や挨拶が、チームワークとマナーを支える潤滑油となっています。



宇野さん

“やりがい”が現場を動かす原動力

友常さんはこの現場を担当されて早10年。病院の設備管理という特性上、突発的な対応や工夫が求められることも多い中、「できたときの達成感が大きい」と語ります。「ここは営繕が多くて大変だけど、その分いろんなことができるのが面白い。何でも任せてもらえるから、やりがいもあるんです」（友常さん）。

一方、宇野さんは、以前に個人病院で看護師として働いていた頃から、自然と清掃の仕事にも関わっていたそうです。そうした医療現場での経験が、今の仕事に対する理解や気配りの土台になっています。

また、東京共済病院で出産をご経験され、患者としてこの病院の雰囲気やスタッフの対応に触れ「ここなら自分も何かの役に立てるかもしれない」と感じて応募してくださったそうです。「もともとよく知っている場所だったので、自然とこの病院で働くと思えました」と話す宇野さんの表情からは、勤務先への親しみや信頼が感じられました。

▼現場担当者 東京営業所 松澤所長より

清掃設備共に3年に1度の入札を今回も無事に落札することが出来たのは、現場の各スタッフが日々業務に真摯に取り組み、お客様の信頼を得ていただいた結果と思っております。

コロナ感染症の大変な時期を乗り越え、人員がなかなか揃わずかなり厳しい状況でも、清掃は社員の鈴木さん、符波さんと各スタッフがお互いに協力しながら欠員を埋め、日々クレームゼロを目指し業務を行っていただいております。設備管理も病院施設が古くなり不具合も多い中で、責任者の友常さんがスタッフを牽引し医療業務に支障が出ないように業務を行ってくださっております。皆様、心より感謝申し上げます。これからもよろしくお願い致します。



共済病院スタッフの皆さん

当現場は横浜市神奈川区に位置する、地域医療の中核を担う総合病院です。JR 横浜線「大口駅」から徒歩約 2 分の距離にあり、アクセスも良好です。病院という特別な場所の清掃は患者さんの命と健康を守る、まさに“縁の下の力持ち”の仕事。今回は当現場で活躍されている清掃責任者・宮内さんにお話を伺いました。

時間との勝負、曜日ごとの段取り

「朝はトイレ清掃からスタートします。限られた時間の中でやらないといけないので、かなりハードです」。

この病院は、火・水・金は 3 人体制、それ以外は 2 人で対応しています。50 個近くあるトイレ、ナースステーション、外来、廊下…。それを 2 人で回すというのですから、その負担の大きさは想像以上です。

曜日ごとに作業内容や人員配置が変わる複雑なスケジュール。さらに、A・B・C と作業工程があり、それが曜日によって異なるため、新人の頃は「てんてこまいだった」と話してくれました。



宮内さん

“声のトーン”も仕事の一部 清掃スタッフのマナー意識

「入院患者さんは体調が悪い方が多いので、大きな声は出さず、控えめなトーンで挨拶しています。気配を消す…まではいきませんが、邪魔にならないように」この言葉に、病院清掃のプロとしてのマナー意識が表れていました。

日常の挨拶ひとつにも細やかな配慮が求められます。特に高齢の方が多い病棟では、認知症の方への対応や、センサーマットなど医療機器への理解も欠かせません。「センサーに触れてナースステーションに通知が行ってしまうと、動いてはいけない患者さんが動いたと思われるので、反応させないよう気を遣います」。

細心の注意を払いながらの作業は、まさに“技術とマナーの融合”とも言えます。患者さんへの気配り、細やかな挨拶、そして常に周囲への配慮を忘れないことが、清掃業務をより高い品質に保っています。

人の少なさは“情報の近さ”にもつながる

少人数の現場だからこそ、自然とチームの連携も密になります。「午前中は別行動ですが、昼に顔を合わせて“ここ気をつけて”などの情報共有をします。人数が少ないからこそ、情報がすぐ回ってくるんです」。

また、状況次第では現場担当職員の根本さんが応援に入り、特に忙しい午前中の作業をサポートしてくれることもあるそうです。少人数であるがゆえに、協力し合う意識やマナーが業務を円滑に進める原動力となっています。

「人のためなら頑張れるんです」

「家の掃除は苦手なんですけど、人のためだとやる気が出るんですね。キレイになると自分もスッキリしますし、患者さんから“ありがとう”って言ってもらえると、やっぱり嬉しいです」。

長期入院されている患者さんとは自然と顔なじみになり、誰かの役に立てている実感が日々のやりがいにつながっているそうです。

▼現場担当者 横浜営業所 根本さんより

病院という特殊な環境の中、日々の業務に邁進していただきありがとうございます。赴任当初から長い時間携わらせていただいている大口東の皆さんには、一から育てていただき、また、シフト面などで無理なお願いばかりしているにも関わらず、いつも助けてくださり感謝しています。これからもよろしくお願いします。



大口東総合病院スタッフの皆さん

当現場は、横浜市瀬谷区にある学校施設です。学業はもちろん、スポーツや文化活動でも全国的に知られ、甲子園にも出場する野球部を擁する伝統校。その充実した学び舎を支えているのが清掃スタッフの皆さんです。現場で活躍する高瀬さん、及川さん、廣石さんに取材を行い、日々の業務や現場の工夫、そして仕事への想いについてお話を伺いました。

最初は戸惑いもありましたが、今は『自分のペース』で

広大な校舎に「迷子になりそうだった」と皆さん入社当初を思い返し懐かしんでいましたが、今では3人それぞれが自分のペースで着実に作業をこなし、信頼し合いながら仕事を分担しています。

「家の掃除の延長のような感覚。黙々と作業できるのが自分には合っている」「最初は慣れなくて大変だったけれど、今は3年目で余裕ができて仲間とも良い関係です」と語る皆さんの言葉からは仕事への安心感が溢れていました。

挨拶が行き交う、気持ちの良い職場

この学校の生徒たちは部活動での礼儀指導もあってか、挨拶の姿勢が非常に立派です。「100人くらいが帽子を取りながら、遠くからでも『おはようございます！』と挨拶してくれる」「お掃除中に『ありがとうございます』と声をかけてくれて、自分たちも自然と『ありがとう』と返してしまう」と、マナーの好循環が生まれているのがこの現場の特徴です。

スタッフ同士でも「ありがとう」が口癖になっていて、気持ちよく働くことができる環境です。

トイレ清掃への誇り「印象を左右する場所だから」

特に力を入れているのが、来校者様が利用される場所のひとつ『トイレ清掃』です。

「子どもが受験のときにこの学校を訪れた際、トイレがキレイで安心しました」「保護者の方は特に、見えにくい部分にこそ目を向けています。流しの詰まりや水はねなど、細かい点まで丁寧に整えるよう心がけています」。

取材を通して感じたのは『見えにくい部分にこそ本当のマナーが表れる』という価値観。トイレは日常的に使われながらも、清潔さや配慮が行き届いていないと一気に不快感につながる空間です。そんな【第一印象を左右する場所】に誇りを持って清掃を行う姿勢には、真のマナーや心遣いが表れていると感じました。

当社を選んだ理由と、現場を支える力への感謝

入社理由は、なじみのある場所だったことや、前職からのご縁、将来を見据えて長く働ける環境を求めて入社した方など、人生のタイミングに応じた選択があり人それぞれでしたが、共通していたのは『通いやすさ』と『職場の雰囲気の良い』でした。支える管理者である、根本さんの存在も欠かせません。清掃道具の準備から急な欠員時の応援体制まで、柔軟に対応してくれることが現場の安定に繋がっており、感謝の声が多く聞かれました。働きやすい職場と、それを支える信頼関係がチームの力強い土台になっています。

▼現場担当者 横浜営業所 根本さんより

いつも皆で楽しそうに作業場の振り分けをしている姿を見て元気をいただいています。

また、横浜隼人中学・高校のみならず清心女子高校や秀英高校といった大谷学園グループ全体で応援体制ができていて連携の取れた仕事をしてくださり、感謝しています。これからもチームワークの良い、気持ち良く働ける職場づくりをしていきましょう。



廣石さん 及川さん 高瀬さん

当現場は、新百合ヶ丘駅から徒歩5分ほどにある乳腺外科を専門とするクリニックです。乳がんをはじめとする乳腺の疾患に対し、専門的な診断と治療を提供しています。当社の清掃スタッフは、マナーや気配り、そして“患者様の気持ちに寄り添う姿勢”を徹底し、チーム全体として高い評価を受けています。一つひとつの仕事を丁寧に、相手の立場に立って行動する姿勢は、多くの患者様や病院スタッフの信頼と安心に繋がっています。今回は沖野さんと久木さんにお話を伺いました。



久木さん

沖野さん

マナー・丁寧さ・患者様の気持ちを大切に

日々の業務の中で大切にしているのは、患者様の気持ちに寄り添いながら、安心して過ごせる環境を整えることです。たとえば、モップがけ一つとっても、滑りやすい場所には特に注意を払い、通行中の方がいれば作業の手を止めて通路を譲ります。ゴミ回収では袋の音が大きくならないように配慮し、トイレ清掃では利用者が不快に感じないように、においや音、タイミングにまで気を配る繊細さがあります。また、すれ違うときには必ず挨拶を交わし、目を見て丁寧に会釈する。何気ないやりとりの一つひとつが、患者様や医療スタッフとの信頼関係を築く土台となっているのです。

“見えない部分にこそ心を込める”。そうした『目配り・気配り・心配り』の姿勢を常に持ち続けています。

「挨拶は基本。気づいたことはすぐ対応」患者様第一の行動

「作業中でも、患者様にはしっかり挨拶します。何よりも“安心して過ごしてもらうこと”が大切です」『患者様第一』の意識が、動作や言葉の端々にまで表れています。廊下ですれ違う際には立ち止まり、目を見てしっかりと挨拶。落ちているゴミや汚れに気づけば、その場で即座に対応します。そうした『気づいたらすぐ行動』の姿勢は、患者様はもちろん、医療スタッフからも高く評価されています。

衛生面の徹底はもちろん、心を込めたマナーや気配りこそが、現場の清潔感そのものをつくっているのかもしれません。

気配りのプロ 現場を支えるスタッフの姿勢

沖野さんや久木さんは、毎日欠かさず病棟内のゴミ回収やモップがけなど、多忙な業務に真摯に向き合っています。作業量の多い中でも、常に周囲に目を配り、患者様や医療スタッフへの気遣いを忘れない姿勢で、日々働かれています。

「患者様やスタッフから『いつも綺麗にしてくれてありがとう』と声をかけてもらえるのが、本当に励みになります。日々の仕事に誰かの役に立っていると実感できて、もっと頑張ろうという気持ちになりますね」。

自然と交わされる挨拶や、さりげない心配りが、病院という空間に安心感をもたらします。

▼現場担当者 町田営業所 柳沼所長より

お客様や患者様への配慮など、お一人お一人が利用者を気遣って日々の清掃業務に従事していただいております。責任者の上野さんを中心に皆さんの連携が素晴らしく、細かい部分まで手が行き届いており、とても助かっております。

お客様からは品質面やスタッフの迅速な対応のおかげでお褒めのお言葉をいただいております。

これからも皆さん一丸となってより良い現場作りにご尽力いただければ幸いです。引き続きよろしくお願いいたします。



責任者の上野さん

当施設は、海老名市にある加工食品の製造や研究開発機能をもつ工場です。現場の高い衛生意識とともに、スタッフ一人ひとりの礼儀や思いやりある対応が評価され優良現場に選ばれました。食品を扱うことは、清潔さ、品質そのものであり信頼の土台となります。今回は責任者・矢口さんに、表にはなかなか見えない清掃現場の工夫や、安全・衛生に対するプロとしてのこだわり、そして現場のこれからの取り組みについてお話をお伺いしました。

日常の中に「プロ意識」を

朝 8 時半から夕方 4 時まで、事務棟の廊下や応接室、トイレ、そして一部の工場通路の清掃を行っています。「きれいであることが“当たり前”な場所なので、普段はあまり目立つことはありません。でも、たまに『お疲れ様です』と声を掛けていただけると、それだけで癒される瞬間がありますね」と語ります。

一見地味にも思える作業ですが、実は食品工場の命運を左右しかねない重要な業務。特にノロウイルスなどの感染拡大を防ぐため、トイレ清掃では次亜塩素酸を使った 1 日 2 回の消毒を徹底。「清掃が甘ければ、工場が止まることにもなりかねません」と、その責任の重さをお話くださいました。

清掃現場の“安全マナー”とは

食品工場という特性上、清掃業務といえども現場にはさまざまな動きがあります。特に注意が必要なのが、作業中にフォークリフトが通行する時間帯です。限られた通路を人と機械が共有する中で、事故を未然に防ぐためには一人ひとりの意識とマナーが欠かせません。「お互いにアイコンタクトをとって確認し合うのが、日常の大切なルールです」。ほんの一瞬の目配せが、大きな事故を防ぐ命綱になる。そんな意識がチーム全体に根付いています。

また、個別に作業を進めるのが基本のため、一人ひとりの自律した行動と判断が求められます。作業そのものの正確さはもちろんですが、安全でスムーズな業務の裏には、日々の小さな気遣いとチーム内での信頼関係が欠かせません。

採用難の時代 私たちにできること

清掃業務を担う人材の確保は年々難しさを増しており、特に高齢の方が多く働いているこの現場では、業務の負担軽減のための柔軟な対応が求められています。

「ただ募集を出しても人が集まらなくなっている。だからこそ、“誰でも無理なくできる作業”を整備し、自動化できる部分は積極的に取り入れていく必要があります」。

清掃という業務は、これからも無くてはならないもの。だからこそ誰にでもできるように工夫し、「ここなら安心して長く働ける」と思ってもらえる現場づくりが重要だとお話くださいました。

▼現場担当者 厚木営業所 一色さんより

日頃より、日常清掃業務において皆さまのご尽力をいただき、誠にありがとうございます。お一人お一人が清掃品質・衛生面に対して高い意識を持ち、安定した清掃体制のもと、現場運営が円滑に行えておりますこと、心より感謝申し上げます。また、急なご依頼にも柔軟かつ迅速にご対応いただく姿勢は、客先からも非常に高く評価されております。これからもお体をお気をつけて、安全第一でご対応いただければ幸いです。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



中村屋神奈川工場スタッフの皆さん

当現場は埼玉県入間市にある食品製造の工場で、大手コンビニチェーンに届けられる中華まんを1日なんと40万個製造しています。高い衛生基準のもと、作業一つひとつに繊細な配慮が求められます。今回は現場責任者の垣内さんにお話を伺いました。

丁寧なあいさつが信頼をつなぐ

特に大切にしているのが[あいさつ]と[マナー]です。あいさつは仕事の始まりと終わりをきちんと区切る“けじめ”であり、信頼関係を築くための第一歩。垣内さんは「工場の従業員の方とすれ違うときや、設備を使わせていただく際には、必ず自分からあいさつをするようスタッフに指導しています」と話します。

丁寧なあいさつと礼儀正しい対応が、信頼の土台をつくり、現場全体の質を高めています。

「一人にしない」フォロー体制

新しく入ったパートスタッフが不安を感じずに働けるよう『なるべく一人にしない』『わからないことを聞きやすい雰囲気づくり』を徹底しています。日常的なコミュニケーションや声かけを意識し、困っている人がいれば誰かが自然とフォローに入るこのチームワークが、働きやすい環境を支えています。



中村屋武蔵工場スタッフの皆さん

信頼される現場を守る

垣内さんはホテル業界で働いていた経験があります。環境は違えど『お客様に清潔で快適な空間を提供する』という本質は変わらず、そこで培われた“見られている意識”や“気配り”は、今の清掃業務にも活かされているそうです。特に食品工場では、衛生面への高い意識が求められますが、帽子の着用をはじめとした基本的な対策を徹底し、清掃のプロとしての責任感をもって日々の業務にあたっています。今後についても「今の良い状態を崩さず、常に衛生と安全を意識しながら、お客様の信頼を守り続けたい」と力強くお話しくださいました。

一度きれいにするだけでなく、それを継続して維持することの難しさと重要性を知っているからこそ、現場全体で“変わらない良い状態”を保つ努力を惜しみません。その姿勢こそが、優良現場として高く評価されている理由のひとつだと感じました。

▼現場担当者 厚木営業所 一色さんより

いつも現場業務に真摯に取り組んでいただき、誠にありがとうございます。武蔵工場は生産量に応じて人員数や日々の回収量が変わるなど、柔軟な対応が求められる難しい現場ですが、皆さまの的確な判断と対応力により、高い清掃品質と衛生状態が維持されています。また、廃棄物回収を含め、突発的なご依頼にもスピーディにご対応いただいております。引き続き健康にご留意のうえ、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

今回の取材を終えて 人事採用グループ 松沢・青木

取材を通じて実感したのは、清掃や電話対応、設備管理といった業務の一つひとつに、現場を支える人々の思いやりと誇り、丁寧なマナーへの意識が込められているということでした。ただ作業をこなすのではなく、その先にいる“誰か”を意識し、真摯に仕事に向き合う姿がとても印象的でした。

声のトーンや所作の細部にまで表れる配慮、安全や快適さへの責任感、それらの全てに共通していたのは、「誰かのために」という思いと、日々の礼節あるマナーの積み重ねです。こうした姿勢が信頼や安心感を生み出し、現場の空気を温かく清らかなものにしていて強く感じました。

今回取材させていただいた優良現場の皆さん、お忙しいところ取材にご協力いただき誠にありがとうございました。

WAKO's Way推進キャンペーン

皆さんが行っている取り組みで『いいね👍』と思ったことばや行動を職員が推薦し、表彰させていただきます。ひきつづき積極的に WAKO's Way の実践をお願いします！
今回受賞された皆さんをご紹介します。



パシフィコ横浜(会議センター)

秋山さん

①『感謝の気持ち』

どんなに忙しい中でも、お客様・関係各社・職場の仲間への感謝の気持ちで、仕事をしていただいています。



パシフィコ横浜(展示ホール)

リンさん

①『感謝の気持ち』

常日頃から周囲へ感謝の気持ちを伝える場面をよく見かけ、「ありがとうございます」とよく声をかけていただいています。



パシフィコ横浜(外構)

齋藤さん

①『感謝の気持ち』

長年当社に貢献していただき、仕事をしていくことに感謝をし、責任をもって取り組んでくださっています。



聖マリアンナ医科大学

伊藤さん

①『感謝の気持ち』

学生さんや職員の方が気持ちよく利用していただけるように、いつも丁寧な仕事ぶりで職員の方からも感謝されております。



津田沼・安田榊原ビル

岩上さん

⑤『チームワーク』

責任者が不在の職場をリーダー的立場で牽引しチームワークを築いて安定させてくれています。



D&M ホールディングス

橋本さん

⑨『徹底したお客様への行動』

突然の緊急事態の中でも、冷静に状況を把握し、救急要請から職場との連携まで、一つひとつを的確に進めてくれました。日頃から、責任感を持ち業務に取り組む、細やかな気配りをしてくださっています。



聖マリアンナ医科大学

高橋さん

⑨『徹底したお客様への行動』

6人のスタッフの安全に配慮し、円滑にまとめつつ自らもお客様の為に日々ご尽力いただいています。お客様からのリクエストにも迅速に対応してくださっています。



東京共済病院

宇野さん、西村さん

⑨『徹底したお客様への行動』

外来診察室担当で、細かく仕切られた場所を丁寧に清掃し、また複数ある待合用のイスも毎日拭き掃除を丁寧に行い、病院側から高い評価をいただいています。



清明学園

佐藤さん、地田さん

⑨『徹底したお客様への行動』

お二人の継続的かつ、真摯な努力により、現場の品質が向上し、業務生産性と信頼性の向上に大きく貢献されました。



パシフィコ横浜(展示ホール)

小島さん

⑪『環境』

廃棄されたゴミや液体等の処理に関して適切に対応し、物や状態により分別も、細かく行ってくれています。



パシフィコ横浜(外構)

足立さん

⑪『環境』

臨港パークの砂浜の清掃において、漂着物の回収をこまめに行い、来場者の方々に安全に利用していただいています。



パシフィコ横浜(国立大ホール)

尾形さん、岸さん、瀬戸さん

⑫『持続可能な社会実現 (SDGs) への貢献』

環境に配慮した無水灰皿の清掃対応をしていただいています。

ご受賞誠にありがとうございました！

職場での熱中症対策が義務化されます！

職場における熱中症による死亡災害が増加していることを受けて、6月1日から改正労働安全衛生規則が施行され、職場での熱中症対策が義務化されました。

熱中症が疑われる方を発見した場合は、速やかに現場責任者、営業所担当者に報告すると共に、「涼しい場所への移動」「からだの冷却」「水分補給」「医療機関への搬送」等、重篤化を防止するために必要な措置を実施してください。

また、熱中症予防のため、日常生活の中で運動や入浴をして汗をかき、体を暑さに慣れさせましょう。作業中のこまめな水分・塩分補給をお願いします。会社で塩タブレット・経口補水液のもと等の熱中症対策品を用意していますので、各営業所の担当者へご連絡ください！

熱中症が発生したら～現場での救急措置

熱中症が疑われる症状が出たら、まず涼しい場所へ、衣服をゆるめて安静にさせ、スポーツ飲料等で水分を与えます。水分を自力で摂取できない、呼びかけに応じない、意識がない場合は、ただちに救急隊を要請し医療機関に搬送します。



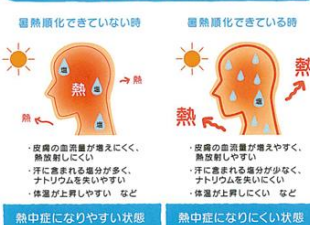
暑さに慣れて熱中症を予防しよう

暑熱順化ポイントマニュアル

暑熱順化とは

暑熱順化とは、体が暑さに慣れることです。暑い日が続く、体は次第に暑さに慣れて(暑熱順化)、暑さに強くなります。

暑熱順化による体の変化

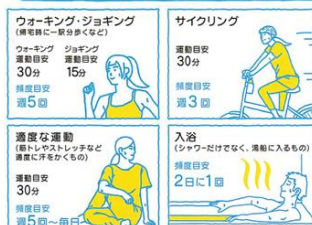


※暑熱順化ができていても、数日暑さから遠ざかると暑熱順化の効能はなくなってしまいます。暑さが暑熱順化できているかを確認し、暑熱順化できているときには、特に熱中症には注意しましょう。

暑熱順化に有効な対策

日常生活の中で運動や入浴をし、汗をかき、体を暑さに慣れさせましょう。個人差もありますが暑熱順化には、数日から2週間程度かかります。暑くなる前から暑熱順化のための動きや活動を始め、暑さに慣れさせよう。

日常生活でできる暑熱順化するための動きや生活



※上記はあくまで目安となります。個人の健康・体調、その日の気温や湿度や体調に合わせ、無理のない範囲で続けてください。運動時は水分や塩分を適量補給し、熱中症に十分注意してください。

「川崎市 PPP プラットフォームセミナー」 パネリストとして当社 PPP 事業部後藤次長が登壇！

去る令和7年3月25日に、川崎市が主催となり、PPP(官民パートナーシップ)を推進するため、市内外の民間事業者を対象にPPP事業に関する情報・ノウハウの共有のためのセミナーが開催されました。会場には68名の参加者が訪れ、オンライン参加も62名と注目の集まるセミナーでした。

当日は、主催者として川崎市副市長・加藤順一氏による挨拶から始まり、次に内閣府民間資金等活用事業推進室・土井海志氏より基調講演「PPP/PFIの最新動向について」、その後パシフィックコンサルタンツ株式会社・高木信吉氏より講演「スモールコンセッションなど官民連携のこれから」が行われました。

そして、包括的な管理による新たな取組～麻生区内学校施設包括管理委託～と題してパネルディスカッションが開催され、株式会社日本経済研究所・横山直子氏、東洋大学大学院公民連携専攻客員教授・金谷隆正氏、川崎市担当課長・亀村豊氏とともに、当社PPP事業部後藤次長が登壇しました。冒頭、亀村様より公共施設の老朽化や維持管理コストの増加に対応するため、効率的な運営手法として包括管理委託を導入したことが説明され、その後、後藤次長より事業の概要とともに導入の成果が発表されました。

ディスカッションにおいてパネリストからは、民間事業者の専門性やノウハウの活用により、包括管理の成果が現れており、今後更なる施設管理の効率化やサービスの向上が期待されるとのお話がありました。また、包括管理導入に伴う課題として契約内容の明確化やモニタリング体制の整備が挙げられ、これらに対する具体的な対応策が議論されました。

このセミナーを通して、最新の動向や事例を学び、地域企業がPPP/PFI事業に参画する意義や方法についての理解が深まる機会となりました。





ワクスル活動報告

HOT PROJECT

ワクスル・グリーンクリーニングとは？

「ワクスル・グリーンクリーニング」は、環境に優しい当社独自のビルクリーニング技法です。一般的な方法では、剥離剤でワックスを剥がし、その廃液は産業廃棄物として処理が必要ですが、この技法ではその廃液を凝集剤で処理し、きれいな水とワックス成分に分離。水は清掃に再利用、ワックス成分は乾燥させて、おう吐物凝固剤にリサイクルします。この技法により、廃棄物削減と環境負荷の軽減が実現しています。



EVENT

SDGs 出前授業

平間小学校にて出前授業を行い、SDGs についての理解を深めるとともに、実際に体験できる活動を提供しました。廃液処理の実験では、子どもたちが目を輝かせながら学んでおり、ワクスルの技術を活用して廃液処理の重要性とその過程を説明。化学反応を目の前で見ることで、環境保護の方法を実感する貴重な機会になったと感想をいただきました。



EVENT

なかはら SDGs まつり



ワークショップやスポーツ体験などSDGsを学ぶことを目的とした本イベント。

当社ブースでは、廃液処理で得られるワックス成分を再利用し、芳香剤を作る体験を実施。ワックス成分に香りを加え、オリジナルの芳香剤を作成することで、リサイクルの可能性を実感していただきました。70名を超える来場者が訪れ、大盛況のうちに終了しました。

SDGs12

つくる責任・つかう責任

SDGs 12は、モノを作る過程や使う過程で、環境に与える影響を最小限に抑え、資源を無駄にしないことを促進しています。これを達成するには、①無駄遣いを減らす ②再利用と長く使う意識 が必要不可欠です。私たち一人ひとりが意識を持って行動することで、企業全体としても持続可能な社会の実現に貢献していきます！

12 つくる責任
つかう責任



NOTICE

子供たちと共に学んだSDGs

地球環境について早い段階から考えることは、子どもたちの未来に大きな影響を与えるかもしれません。実際に環境問題に取り組む体験を通じて、無理なく始められる小さな行動でも、それが積み重なることで、大きな変化を生むことができると強く感じました。私たち一人ひとりが、未来を担う子どもたちにとっての「学びの種」を蒔く一助となり、社会に貢献できることを誇りに思いながら、持続可能な社会に向けて前進し続けます。

FM yokohama [CHALLENGER' SVOICE] 掲載



この度 FM yokohama の放送局にて「CHALLENGER' SVOICE」神奈川」というメディアが立ち上がり、編集部が選ぶ「神奈川を牽引する人」として矢口社長がノミネートされ取材を受けました！

<<特設ページより>>

挑戦する者の声には熱がある。

”今を生きる挑戦者”の物語が詰まっています。



矢口社長の熱い想い、こらからの未来を見据えた言葉が綴られています。

『challengersvoice.com』と検索し当社ロゴをクリック、または右の QR コードから閲覧ください。



川崎市政100周年記念事業協賛

当社が本社を置く川崎市は1924年7月1日に発足し、今年で100周年を迎え、記念事業として開催される様々なイベントに協賛しています。これに伴い、イベント会場やポスター・配布物等に企業名が掲載されます。

また、公式ウェブサイトの協賛企業・団体の取組紹介に、矢口社長、中西常務、矢口部長が語る当社の取組も取り上げられています。ぜひご一読ください。

今後も地域に愛される企業となるため邁進してまいります！



▲全国都市緑化かわさきフェア パンフレット

川崎市政100周年記念事業 協賛企業一覧

開催日:2024/04/01～2025/03/31
【和光産業株式会社】環境先進企業で創業100年に向けワクワク【プラチナ・ゴールド協賛企業のご紹介】

和光産業とは



▲公式ウェブサイト インタビュー記事

感謝状授与

パシフィコ横浜の代表取締役社長 林様よりパシフィコ横浜事業所所属の金子さん、柳川さんに感謝状が授与されました。

他協力会社とともに施設内で体調を崩し動けなくなっていた方を発見・救助し、迅速に人命救護にあたってくださいました。

また、2名には当社からも Wako's Way 特別表彰を行いました。

緊急の事態に直面しても、強い責任感と使命感を持って的確に対応された金子さん、柳川さんに感謝の意を表します。



▲2月6日 授与式にて



▲Wako's Way 特別表彰

新入社員紹介

ご結婚・ご出産おめでとうございます



R6 年 11 月 7 日



R7 年 3 月 23 日生まれ

4 期生ター ティ マイさん、孫沐言(Sun-Mu-Yan)ちゃん



青木世風
(目白大学卒)

大学では日本語教育を専攻していました。趣味はカラオケで、休日は友達とカラオケに行き、一日中歌っています。音楽が好きでピアノを習い始めて一年ほどになります。頼もしい先輩方から一つでも多く学んで会社に貢献していきたいと思っています。これからどうぞ、よろしくお願いいたします。



左からグエン・フォンさん/トゥー・フォンさん
ラムさん/チン・タムさん/フォンタオさん/ティンさん

ベトナム人技能実習 9期生入社

日本での生活や仕事には慣れないことも多いかと思いますが、安心して働いていただけるよう、サポートします！これからよろしくお願いします！

特定技能帰国

帰国された 4 名はパシフィコ横浜、東京共済病院で勤務され丁寧な仕事でお客様からの評価も高く、当社の清掃品質の向上に貢献してくださいました。日本語の勉強にも熱心に取り組む、日本語スキルが飛躍的に向上しました。当社で身につけた技術や日本での経験や語学力を活かし、ベトナムでの活躍をお祈りしています。皆さん本当にお疲れ様でした！

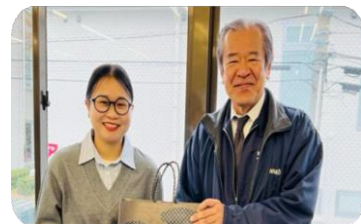
ダオ アイン ゴックさん (モモ)
3 期生 (勤続 6 年)



レー ティ チャさん
専門職 (勤続 3 年)



グエン ティ トウ ハーさん
4 期生 (勤続 4 年)



グエン ティ アイン ニャンさん
国内採用 (勤続 2 年)



祝 モモさん N1 合格

日本能力試験で最も難易度の高い「N1」に見事合格されました！
おめでとうございます！



編集後記

気象庁の季節予報によると、今年は 4 月と 5 月は平年並み、6 月は例年に比べ全国的に気温が高い予想だそうです。本格的な夏を迎える前に熱中症に備え、今のうちからできる対策を行い、この夏を乗り切りましょう！

くつろぎ vol. 470

令和 7 年 6 月吉日発行
和光産業株式会社
編集長：福沢
編集者：松沢 金子 青木
〒210-0852
川崎市川崎区鋼管通 1-3-17